

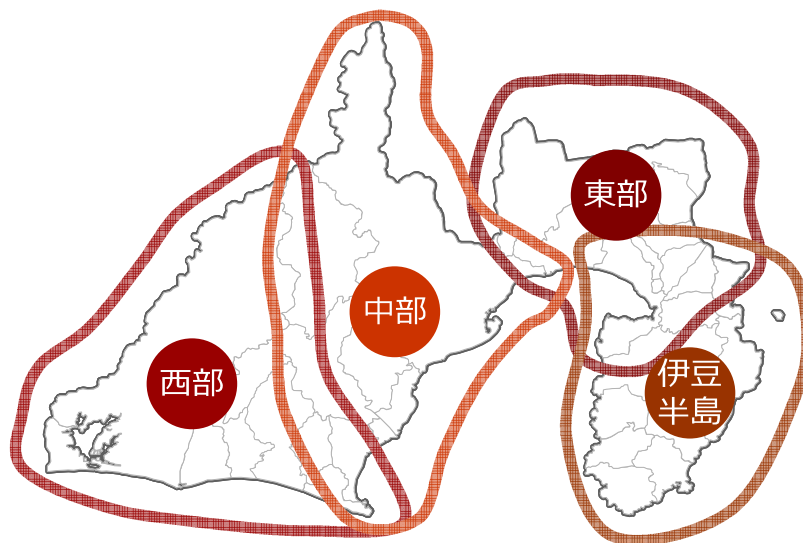
本章では、4つの地域の目指す姿の実現に向け、活用する地域資源、施策の基本方向、主な取組を明示します。

1 伊豆半島地域

2 東部地域

3 中部地域

4 西部地域



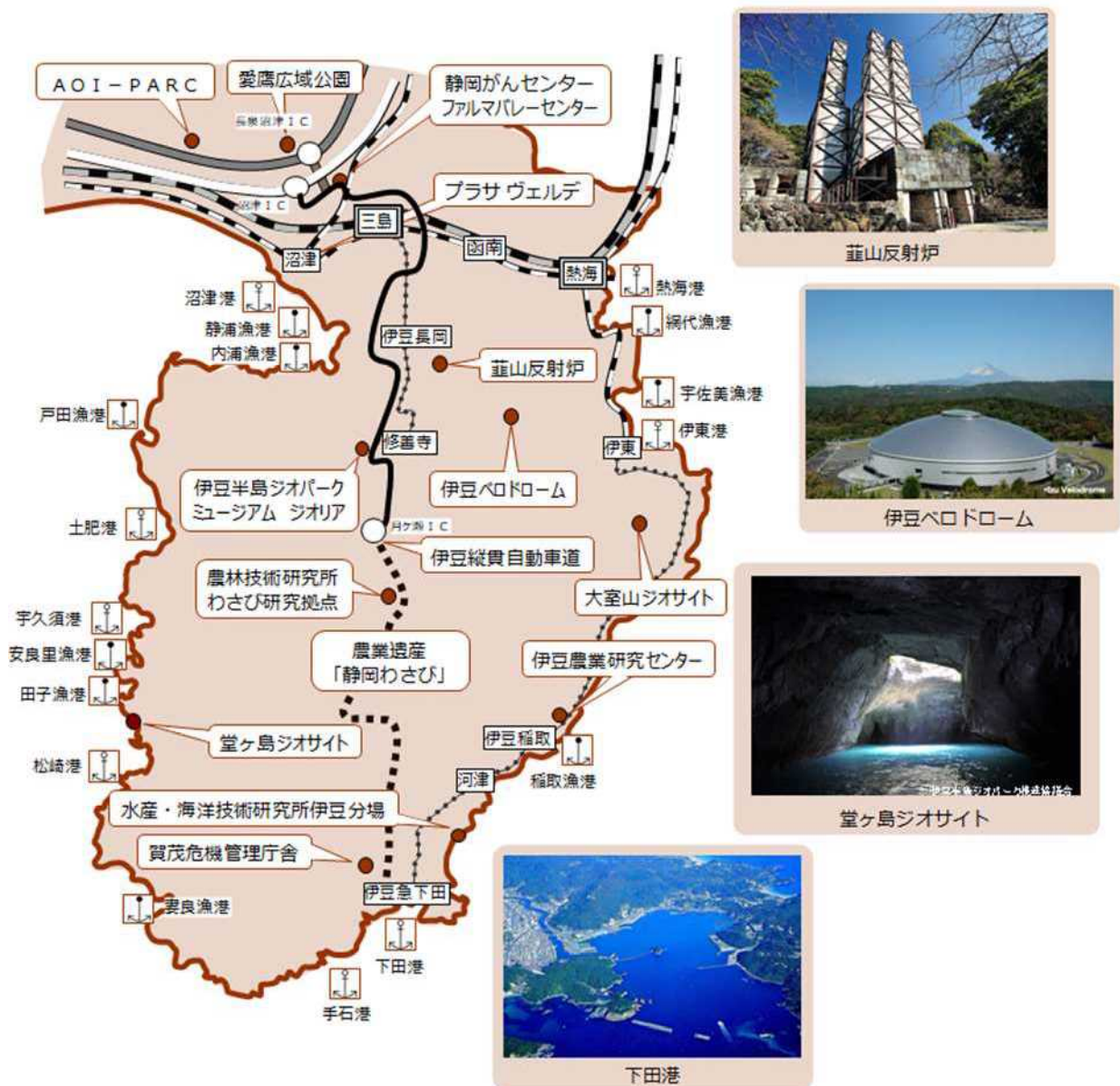
1 伊豆半島地域

◆ 目指す姿

『世界レベルの魅力あふれる自然を生かした観光交流圏』

- コロナ禍を踏まえ、感染症の再拡大や社会経済の大きな変化に対して、柔軟で強靱な地域
- 伊豆半島地域の特色ある風土や歴史に住む人も訪れる人も愛着と魅力を感じ、活発な観光交流が賑わいを生み出す地域
- 地域の人々が働きたいと思える雇用の場が創出され、仕事と生活が調和したゆとりある暮らしを实践できる地域
- 伊豆縦貫自動車道や関連するアクセス道路による交通ネットワークの形成が進み、半島全体の回遊性が高まり、快適な交流と利便性の高い暮らしが実現する地域
- 「伊豆は一つ」の理念に基づく多様な主体の連携・協働が深まるとともに、脱炭素や循環型社会に向けて、都市と農山漁村の交流が進み、「地域循環共生圏」が一体的に形成・発展する地域

◆ 地域資源・基盤施設



❖ 主な施策の基本方向

(1) 安全・安心な地域の形成

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を早期に収束させるとともに、新しい感染症や再流行の感染症などの拡大に備え、まん延防止のための体制を構築します。
- 住民の早期避難意識の向上や多様な避難の促進など、地域防災力の向上を図るとともに、近年激甚化する風水害に備えたハード・ソフト両面による対策、地域の生活や景観と調和した地震・津波対策、伊豆東部火山群の噴火に備えた対策を推進し、住民にも観光客にも安全な地域を形成します。また、熱海市で発生した土石流災害を教訓に、同様の災害が発生しないよう適切な対策を進めます。
- 地域医療の担い手の確保と偏在解消、無医地区や過疎地域における医療の確保、地域包括ケアシステムの構築に取り組み、安心して暮らせる医療・介護を実現します。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

- 地域の特性を活かし、脱炭素社会とSDGsを実現する「地域循環共生圏」の形成を推進します。
- 地域資源を活かした多彩な働き方・暮らし方の実現により「心の豊かさ」を実感できる圏域を実現します。
- 世界レベルの自然環境・温泉資源を活かした観光産業を展開します。

(3) 富をつくる産業の展開

- オープンイノベーションや産学官金の連携により医療健康産業の集積を目指すファルマバレープロジェクトを推進し、地域経済を支える産業の振興を図ります。
- 豊富な温泉資源の科学的な知見に基づく、新たな価値を生み出す試みとして、伊豆ヘルスケア温泉イノベーション（ICOI）プロジェクトを展開します。
- 観光業との連携による地域の特色ある農水産物の販売の拡大や、地域産材や森林の利用を促進し、観光地域づくりと連携した農林水産業の持続的な発展を実現します。

(4) 魅力ある暮らしの実現

- 美しく活力ある農山村の創造や農業遺産を活用した地域づくりを推進するとともに、伊豆半島地域ならではの暮らしを希望する人々の広域的な受入態勢の充実を図り、人々が住み続け、住みたいと思える地域を形成します。
- 過疎、半島地域における社会基盤の整備、地域のニーズに応じた生活交通の確保、移住・定住や地域間交流の促進等に取り組み、持続可能で活力ある地域を形成します。

(5) 地域の魅力の向上と発信

- 東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技レガシー継承としての「サイクルスポーツの聖地」づくりを推進し、サイクルスポーツによる新たな観光需要の創出を図ります。
- 世界遺産韮山反射炉の保存管理、国内外からの来訪者に誇れる美しい景観の形成、富士箱根伊豆国立公園の利用促進に取り組み、世界クラスの地域資源の魅力の向上を図ります。

(6) 多彩な交流の拡大

- DMOの機能強化や各種団体との連携強化を図り、ジオパークなど伊豆半島の魅力を活用したテーマ性を持った「しずおかサステナブルツーリズム」を推進し、世界に輝く観光交流圏を目指します。

- 伊豆縦貫自動車道や関連する道路の整備を進めるほか、海上交通を含めた多彩な交流を支える広域交通ネットワークの充実を図ります。
- 神奈川県や山梨県との連携による取組を推進し、富士箱根伊豆地域や「環相模湾」の広域的な振興を図ります。

成果指標	現状値	目標値
伊豆半島地域の宿泊客数	(2020年度) 588万人泊	1,280万人泊
移住相談窓口等を利用した県外から伊豆半島への移住者数	(2020年度) 348人	410人
高規格幹線道路（伊豆縦貫自動車道）の供用率	(2020年度) 41%（24.6km）	46%（27.6km）

❖ 主な取組

(1) 安全・安心な地域の形成

(感染症拡大に対する危機管理体制の強化)

- 新型コロナウイルス等の感染症について、地域局、市町、事業者等との連携を強化し、発生や拡大に備えた準備を進めます。

(地域防災力の強化)

- 多様な避難を促進するため、在宅避難や親戚・知人宅への避難について啓発を図るとともに、地域の公民館を「防災コミュニティセンター」として整備し、新たに避難所として位置付ける市町の取組を支援します。また、賀茂地域広域連携会議や賀茂指揮官会議において、伊豆半島の災害対応力の強化について、関係市町間の情報共有等を図ります。
- 熱海市で発生した土石流災害を踏まえ、住民の安全を確保するための土砂災害防止施設等の整備を推進するとともに、盛土行為の危険箇所等について、市町や関係者と連携した是正指導等を行います。
- 県民の早期避難意識を高め、災害発生時に適切な行動ができるよう、災害リスクや地域特性に応じた住民一人ひとりの「わたしの避難計画」の普及を図ります。

(津波対策の推進)

- 地域住民の生活や地域の景観と調和した津波防災対策を推進するため、市町と連携し、伊豆半島地域の特性を踏まえた津波対策施設・津波避難施設の整備や津波避難訓練等を実施します。

(風水害対策の推進)

- 風水害から命と暮らしを守るため、狩野川水系等における河川や排水施設の整備、土砂災害防止施設等の整備、既存施設の長寿命化対策等のハード対策に加え、市町の避難体制整備の支援などのソフト対策を推進します。

(火山災害対策の推進)

- 伊豆東部火山群の噴火に備えた防災体制を強化するため、関係市町と関係機関で構成する伊豆東部火山群防災協議会において避難計画の検証を行います。

(医師の確保・偏在解消)

- 地域医療の担い手の確保と、圏域の現状に即した効果的な配置の実現に向け、県内外の医科大学との連携・協力により医学修学研修資金利用者を増やし、病院の要望や、医師の充足状況を踏まえた配置を行います。

(地域医療体制の確保・地域包括ケアシステムの推進)

- 無医地区や過疎地域における医療や、周産期、小児等の医療提供体制を確保するため、定期的な巡回診療や患者輸送体制の整備、へき地病院等の医師の確保、医療機関への支援を推進し、医療提供体制の充実を図ります。
- デジタル技術の活用等により、限られた医療資源の効率的な活用の検討や移動支援における運転ボラ

ンティア養成など住民主体の安定的なサービス提供に向けた担い手の育成等に取り組みます。

- 将来にわたって住民の健康を守るため、限られた地域の資源を有効活用しながら、市町、医療関係団体等との連携により、生活習慣病予防対策を推進します。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

(環境と調和した循環型社会への移行・自然との共生の実現)

- 地域特性に応じた地域資源の循環モデルを創出します。世界農業遺産である「静岡の水わさびの伝統栽培」の保全を図るとともに、グリーンツーリズムへの展開にも注力し、世界への発信につなげます。
- 県水産・海洋技術研究所による水産資源の育種等に取り組み、キンメダイなどの生産にかかる栽培技術の高度化を進めるとともに、藻場の再生などにも取り組みます。

(まちづくり、住宅・建築物、交通システムのリデザイン(再設計))

- 食文化と観光を結びつける「ガストロノミーツーリズム」とともに、歴史・文化資源などを活かした新たな観光戦略を展開します。また、豊かな温泉資源を活かし、科学的なエビデンスの下に、その付加価値を高める I C O I (Izu health Care Onsen Innovation) プロジェクトを新たに展開します。
- 自動運転などの実証実験を通じて、2050年のカーボンニュートラルの目標に向け、市町や経済団体等と連携しながら、中小企業等の C A S E 対応への支援を強化します。
- 伊豆縦貫自動車道の整備などによる交流・経済の拡大を目指します。「パイ・ふじのくに」などの新たな地域主導型の経済政策「フジノミクス」を積極的に展開します。

(環境共生圏への再生可能エネルギー等の導入促進)

- 官民が連携して、環境重視型の再生可能エネルギーの導入促進を図ります。

(産業構造の転換に向けた取組)

- 農業の生産性向上と収益拡大を目指し、A I やドローン等の先端技術を活用したスマート農業を促進します。A O I - P A R C を中心に先端農業技術の農業現場への実装を加速化します。
- CO2 の吸収源対策に資する森林資源の循環利用を促進するため、I T やドローン等の先端技術を活用して効率的な路網や生産団地の整備を進め、認証林工リアの拡大を図り、県産材の供給体制を整えます。

(3) 富をつくる産業の展開

(リーディングセクターによる経済の牽引)

- 中核支援機関であるファルマバレーセンターや県立静岡がんセンターを中心に医療城下町の更なる発展を目指し、産学官金が連携し、医療現場のニーズを地域企業の技術シーズと結びつけ研究開発を促進するとともに、医療機器の開発を担う中核人材を育成します。
- 伊豆ヘルスケア温泉イノベーション (I C O I) プロジェクト等の展開により、伊豆半島の温泉を核とし、自然、歴史、文化、食及び運動などの地域資源と組み合わせたヘルスケアサービスの創出を図ります。

(観光サービス産業の振興)

- (一社) 美しい伊豆創造センターを中心に国内外からの来訪者のニーズを的確に捉えた観光地域づくりが推進されるよう、静岡県 D M O 会議の開催等により、各種関係団体や県域 D M O 「静岡ツーリズムビューロー」(T S J) との連携を促進します。
- ワーカーションやマイクロツーリズムなど、旅行者の行動変容等に対応した新たな需要の獲得に向けた観光事業者等の取組を支援します。

(農業の競争力の強化)

- 施設園芸に関する施設整備や環境制御装置導入を支援し、生産者の経営体質強化を促進します。また、持続的な農業生産を実現するため、有機農業等の環境に配慮した生産方式の導入・定着を支援します。さらに、わさびをはじめとする農山村地域の産物等のプロモーション強化や、これらの地域資源を活用した農業体験施設や農産物直売所への観光客等の集客を図ります。
- 豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の発生を防止するため、農場へのウイルス侵入防止対策指導に取り組むとともに、発生に備えた防疫体制の改善に取り組めます。

(林業の成長産業化)

- 林業イノベーションの推進、主伐・再造林の促進、森林認証材の供給拡大のほか、移住者等の林業への就業促進、中継地となる貯木場を活かした流通の効率化、地域産材や森林の利用促進に取り組めます。また、しいたけの生産振興と販路拡大を支援します。

(水産王国静岡の持続的発展)

- 地域の水産業の持続的発展を図るため、漁協直営食堂の運営支援やダイビングサービス等の体験型施設の整備等による観光との連携促進、食育活動の支援、漁業基盤の機能強化と保全対策を行います。

(4) 魅力ある暮らしの実現

(美しく活力のある農山村の創造)

- 美しく活力のある農山村の創造に向け、農地、農業用施設等の地域資源の保全や、地域活性化に資する地域ぐるみの活動の支援、土地改良施設の耐震化や更新整備を推進します。また、世界農業遺産「静岡水わさびの伝統栽培」を活用したブランド力の強化やわさび田保全の意識醸成を進め、わさびの生産振興と消費拡大を図ります。
- 野生鳥獣による農作物の被害を防止するため、防護柵の設置、管理捕獲や被害防止目的の捕獲などの対策強化、アドバイザーや捕獲の担い手の育成、防除技術の開発を進めます。また、広域的な鳥獣被害対策の実施に向け、市町間連携による被害防止対策の体制づくりを支援します。

(地域住民が憩い楽しむ場の提供)

- 海岸防災林が、防風や防潮、津波に対する被害の軽減だけでなく、散歩や自然観察のフィールド、優れた景観などを提供し、地域の賑わいを創出する「市民の憩いの場」となるよう、適切な管理に取り組めます。

(移住・定住の促進)

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、暮らし方や働き方の多様化が進んでいることから、伊豆半島地域の魅力等、移住検討者の個々のニーズに応じた情報発信の強化や相談体制の充実を図り、移住・定住を促進します。

(環境に配慮した快適な社会の形成)

- 再生可能エネルギーの導入拡大、技術革新の推進、吸収源対策の推進、エネルギーの地産地消など持続可能な地域社会の形成に取り組めます。

(快適で安全なまちづくりの推進)

- 人口減少が顕著な伊豆半島地域において、持続可能なまちづくりを推進するため、伊豆急行、伊豆箱根鉄道等の駅周辺を中心に、地域公共交通と連携した利便性の高い市街地の整備を行う市町を支援します。

(生活交通の維持・確保)

- 地域のニーズに応じた利便性の高い生活交通を維持・確保するため、公共交通の運行の維持・確保や安全な運行等に不可欠な設備整備及び公共交通網の再編に取り組む市町・交通事業者を支援します。

(過疎・半島地域の振興)

- 過疎、半島地域の振興を図るため、県代行事業による基幹的市町道や林道などの社会基盤の整備を推

進めます。また、税制優遇を活用した企業誘致や地域の魅力を活かした移住定住・地域間交流の促進等により、地域の持続的発展を支援します。

(地域コミュニティの活性化)

- 持続可能な地域コミュニティを形成するため、県・市町連携による地域課題の解決方策の検討や、地域活動を牽引するリーダー等の養成、コミュニティ施設整備を推進する市町の支援に取り組みます。

(5) 地域の魅力の向上と発信

(「サイクルスポーツの聖地」の実現に向けた取組)

- オリンピック・パラリンピックを契機としたレガシーを活用し、国内外から多くのサイクリストが訪れる「サイクルスポーツの聖地」の実現に向け、サイクリストの受入環境の整備、自転車走行環境の整備・改善、県民が自転車に親しむ機会の創出、サイクリングを活用した海外交流に取り組みます。

(スポーツを通じた交流)

- 国内外とのスポーツを通じた交流の拡大に向け、伊豆半島地域の自然環境を活かしたスポーツの振興に取り組みます。

(文化を創造・発信する活動の推進)

- 県内各地を題材・素材にした全国公募の「伊豆文学賞」を実施し、東部・伊豆地域で表彰式や伊豆文学塾等の伊豆文学フェスティバルを開催することにより、文学の地として名高い伊豆・東部地域等の多彩な地域文化を創造・発信します。

(県民主体の創造的な活動の推進)

- 創造的な地域社会を形成するため、アーツカウンシルしずおかをプラットフォームとして、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など様々な分野と文化芸術を結び付け、アーティストによるワーケーションの実施など、地域課題への対応や地域活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

(世界遺産韮山反射炉の適切な保存管理)

- 世界遺産韮山反射炉の価値に対する理解を深め、国内外からの来訪を促進するため、伊豆の国市による反射炉本体の修理工事などの保存管理を支援するとともに、県民向け講座等により顕著な普遍的価値の情報発信に取り組みます。

(伊豆半島の景観形成)

- 伊豆半島の良好な景観の形成のため、広域景観協議会等を通じ市町と連携を図りながら、防護柵の景観配慮や修景のための樹木伐採、屋外広告物の適正化等による魅力的な沿道景観づくりを推進するとともに、周囲の景観と調和した観光地の景観形成や美しい眺望景観のPRなどに取り組みます。また、良好な森林景観の形成と保全に寄与する間伐等の森林整備を促進します。

(自然公園等の適切な管理)

- 人々の自然環境の保全への理解を深めるとともに、自然公園の所在する地域の活性化を図るため、富士箱根伊豆国立公園を中心に、国、関係市町等との連携により、公園計画等に沿った安全で快適な自然公園の利用を促進します。

(6) 多彩な交流の拡大

(関係者との連携による観光サービス産業の振興)

- (一社)美しい伊豆創造センターを中心に国内外からの来訪者のニーズを的確に捉えた観光地域づくりが推進されるよう、静岡県DMO会議の開催等により、各種関係団体や県域DMO「静岡ツーリズムビューロー」(T S J)との連携を促進します。

(多彩な観光資源を活用した「しずおかサステナブルツーリズム」の推進)

- 国内外からの来訪を促進するため、世界遺産韮山反射炉などの世界クラスの観光資源や、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーであるサイクルスポーツ、大河ドラマの放送で注目を集める歴史・文化、多彩で高品質な食と食文化など、地域の様々な魅力を活用した付加価値の高い体験型観光により誘客を図る地域の取組を支援します。
- ワークーションやマイクロツーリズムなど、旅行者の行動変容等に対応した新たな需要の獲得に向けた観光事業者等の取組を支援します。
- I C O I プロジェクトのプロモーションを契機とし、宿泊施設や観光施設などと連携して、健康増進を切り口とした温泉地ならではのワークーションプランの開発や長期滞在が可能となる受入体制の構築等を促進します。

(伊豆半島ジオパークの活用強化)

- 伊豆半島ジオパークを活用した地域の活性化を図るため、アウトドアツーリズム等と組み合わせた誘客促進を図る（一社）美しい伊豆創造センターの活動を支援するとともに、地質に加え地域の歴史や文化との関わりが理解できるジオサイトの整備、国際ネットワークとの交流に取り組みます。

(道路網の強化)

- 安全・安心の確保と産業活動を支援するため、国に対し、伊豆半島の背骨となる伊豆縦貫自動車道の未整備区間の整備推進を働きかけるとともに、地域全体の道路網のあるべき姿を示した「伊豆半島の道路網整備実施計画」に基づき、肋骨となる道路整備を推進します。また、半島地域の特性を活かした海上交通を含めた多彩な交流を支える広域交通ネットワークの形成・充実を図ります。
- 高度経済成長期に集中的に建設された橋やトンネルなど、道路施設の急速な老朽化に備え、劣化の進行を適切に予測し計画的な補修を行う「予防保全管理」により、道路施設の長寿命化を図ります。

(富士箱根伊豆地域・「環相模湾」連携の推進)

- 富士箱根伊豆地域における広域課題の解決に向け、観光振興や防災対策、環境対策など、山梨・静岡・神奈川三県の連携による取組を推進します。
- 「環相模湾」の広域的な振興を図るため、社会基盤の整備、観光振興の展開など、神奈川県等との連携による取組を推進します。

2 東部地域

❖ 目指す姿

『日本の国土のシンボル富士山を世界との交流舞台とした健康交流都市圏』

- コロナ禍を踏まえ、感染症の再拡大や社会経済の大きな変化に対して、柔軟で強靱な地域
- 医療健康産業の集積が進むとともに、世界的な未来実証都市プロジェクトなどのオープンイノベーションにより、新しい産業が創出される地域
- 利便性の高い都市や暮らしの魅力が向上し、地域の人々が住み続け、首都圏の人々が住んでみたいと思える地域
- 富士山を中心とする豊かな自然環境が適切に保全されるとともに、地域の多様な主体がその恵みや価値を共有し、持続的に発展する地域
- 世界文化遺産富士山の価値や魅力が広く国内外に浸透し、多くの人々の憧れを集め、富士箱根伊豆地域の中核都市圏として環境と経済、社会が調和した「地域循環共生圏」が一体的に形成され、発展する地域

❖ 地域資源・基盤施設



❖ 主な施策の基本方向

(1) 安全・安心な地域の形成

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を早期に収束させるとともに、新しい感染症や再流行の感染症などの拡大に備え、まん延防止のための体制を構築します。
- 住民の早期避難意識の向上や多様な避難の促進など地域防災力の向上を図るとともに、地震や津波、近年激甚化する風水害に備えたハード・ソフト両面による対策、新たなハザードマップを踏まえた富士山火山広域避難計画に基づく対策を推進し、地域住民の安全を確保します。
- 地域医療の担い手の確保と偏在解消により、安心して暮らせる医療の充実を図るとともに、県立静岡がんセンターにおける高度がん専門医療の提供に取り組みます。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

- 地域の特性を活かし、脱炭素とSDGsを実現する「地域循環共生圏」の形成を推進します。
- 日本のシンボル富士山への憧れ、ウーブン・シティの取組により世界から多様な主体・産業が集う圏域を目指します。
- オープンイノベーションを促進し、多様な主体による「新たな産業」「新たな成長」を実現できる圏域を目指します。

(3) 富をつくる産業の展開

- 産学官金の連携によるファルマバレープロジェクトの推進や、C N F 関連産業の創出と集積の促進に取り組み、付加価値の高いものづくり産業を育成・振興します。
- A O I（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進や地域の農業基盤の強化、畜産クラスターの形成、富士山麓のヒノキなどの地域産材の普及や特色ある水産資源の消費拡大を図り、富士山麓に育まれた農林水産業の競争力を強化します。
- 日本のシンボル富士山への憧れ、ウーブン・シティの取組により世界から多様な主体・産業が集う圏域を目指します。

(4) 魅力ある暮らしの実現

- 美しく活力ある農山村の創造や県営都市公園における地域住民が憩い楽しむ場の提供に取り組むとともに、良好な交通アクセスを活かして首都圏在住者の移住・定住を促進し、人々が住み続け、住みたいと思える地域を形成します。
- 沼津駅周辺における広域的な拠点都市づくりをはじめ、都市基盤の整備による良好な市街地の形成に取り組み、地域の活力を生み出す高次都市機能の充実を図ります。

(5) 地域の魅力の向上と発信

- 世界遺産構成資産の適切な保存管理、富士山世界遺産センターにおける人材育成や情報発信に取り組み、世界遺産富士山の後世への継承を図ります。
- 富士山周辺地域の自然環境の保全や富士山の良好な眺望景観の形成、富士箱根伊豆国立公園の利用促進に取り組み、美しい富士山の自然と共生する地域を実現します。

(6) 多彩な交流の拡大

- DMOの機能強化や各種団体との連携強化を図り、富士山の自然や歴史・文化の魅力を活用したテ-

ま性を持った「しずおかサステナブルツーリズム」を推進し、世界に輝く観光交流圏を目指します。

- 新東名高速道路や東駿河湾環状道路をはじめとする道路網の強化や、沼津港における賑わい拠点づくりや田子の浦港の機能強化に取り組み、多彩な交流を支える広域交通ネットワークの充実を図ります。
- 山梨県や神奈川県との連携による取組を推進し、富士箱根伊豆地域や「環富士山」の広域的な振興を図ります。

成果指標	現状値	目標値
富士山の世界文化遺産としての顕著な普遍的価値を理解している人の割合	(2020年度) 25%	50%
ファルマバレープロジェクト事業化件数 (先端産業創出プロジェクト)	(2017～2020年度) 累計 57件	(2022～2025年度) 累計 60件
移住相談窓口等を利用した県外から東部地域への移住者数	(2020年度) 426人	500人

❖ 主な取組

(1) 安全・安心な地域の形成

(感染症拡大に対する危機管理体制の強化)

- 新型コロナウイルス等の感染症について、地域局、市町、事業者等との連携を強化し、発生や拡大に備えた準備を進めます。

(地域防災力の強化)

- 多様な避難を促進するため、在宅避難や親戚・知人宅への避難について啓発を図るとともに、地域の公民館を「防災コミュニティセンター」として整備し、新たに避難所として位置付ける取組を支援します。
- 県民の早期避難意識を高め、災害発生時に適切な行動ができるよう、災害リスクや地域特性に応じた住民一人ひとりの「わたしの避難計画」の普及を図ります。

(津波対策の推進)

- 津波等による被害の軽減を図るため、防潮堤の整備、河口部の水門の耐震化、港湾・漁港における堤防の高上げなど、津波対策施設等の整備を推進します。

(風水害対策の推進)

- 風水害から命と暮らしを守るため、狩野川水系、富士川水系等における河川や排水施設の整備、土砂災害防止施設等の整備、既存施設の長寿命化対策等のハード対策に加え、市町の避難体制整備の支援などのソフト対策を推進します。

(富士山火山災害対策の推進)

- 山梨県や神奈川県、周辺市町村、国、火山専門家、その他の関係機関により「富士山火山防災対策協議会」を組織し、広域連携を図っていきます。また、富士山火山災害の発生時に、住民が的確に避難できるよう、住民説明会等を通じて、「富士山ハザードマップ」(改訂版)の理解を促進するとともに、市町における避難訓練の実施を推進します。

(医師の確保・偏在解消)

- 地域医療の担い手の確保のため、県内外の医科大学との連携・協力により、医師にとって魅力のある勤務環境づくりを推進し、医師確保に努めます。
- 病院の状況や要望を踏まえ医学修学研修資金利用者を増やすとともに、医師の偏在解消に向けた配置を行います。

(静岡県立静岡がんセンターによる高度専門医療の提供)

- 県立静岡がんセンターでは、最先端の高度がん専門医療の提供、包括的患者家族支援体制の充実、が

ん医療に強い人材の育成、がん臨床研究の推進、ファルマバレープロジェクトへの積極的な協力による医療技術開発に取り組みます。

(発達障害のある人に対する支援の充実)

- ライフステージに応じた切れ目のない支援体制を構築するため、県東部発達障害者支援センターを中心に、保健、医療、福祉、教育、労働等の関係機関との連携・協働による地域支援力の向上に取り組みます。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

(環境と調和した循環型社会への移行・自然との共生の実現)

- 地域特性に応じた地域資源の循環モデルを創出します。植物由来の新素材C N F（セルロースナノファイバー）の産業応用への研究開発を、産学官金の連携の下で促進します。
- 世界文化遺産である富士山を、将来にわたって保全していくための環境整備を着実に推進します。市町、関係団体などとともに、環境保全の県民運動を積極的に展開します。
- 県水産・海洋技術研究所による水産資源の育種等に取り組み、マダイやクエなどの生産にかかる栽培技術の高度化を進めます。

(まちづくり、住宅・建築物、交通システムのリデザイン（再設計）)

- 食文化と観光を結びつける「ガストロノミーツーリズム」とともに、歴史・文化資源などを活かした新たな観光戦略を展開します。
- 自動運転などの実証実験を通じて、2050年のカーボンニュートラルの目標に向け、市町や経済団体等と連携しながら、中小企業等のC A S E対応への支援を強化します。
- 中部横断自動車道の開通などによる交流・経済圏の拡大に対応した、「バイ・ふじのくに」などの新たな地域主導型の経済政策「フジノミクス」を積極的に展開します。また、田子の浦港のカーボンニュートラルポート（C N P）などの取組を推進します。

(環境共生型の再生可能エネルギー等の導入促進)

- 官民が連携して、再生可能エネルギーの導入促進を図るとともに、水素エネルギーについても導入に向けた取組を支援します。

(産業構造の転換に向けた取組)

- 農業の生産性向上と収益拡大を目指し、A Iやドローン等の先端技術を活用したスマート農業を促進します。A O I - P A R Cを中心に先端農業技術の農業現場への実装を加速化します。
- CO₂の吸収源対策に資する森林資源の循環利用を促進するため、I Tやドローン等の先端技術を活用して効率的な路網や生産団地の整備を進め、認証林工リアの拡大を図り、県産材の供給体制を整えます。
- 世界的な未来実証都市とともに、周辺のインフラや教育、医療などの環境整備を推進するとともに、ファルマバレープロジェクトなどにより医薬品・医療機器産業の集積を図ります。

(3) 富をつくる産業の展開

(ファルマバレープロジェクトの推進)

- 中核支援機関であるファルマバレーセンターや県立静岡がんセンターを中心に医療城下町の更なる発展を目指し、産学官金が連携し、医療現場のニーズを地域企業の技術シーズと結びつけ研究開発を促進するとともに、医療機器の開発を担う中核人材を育成します。

(C N Fプロジェクトの推進)

- C N F関連産業の創出と集積を図るため、富士工業技術支援センターを中核支援機関とし、産学官の

連携により、研究開発の支援や中核人材の育成に取り組み、将来的に大きな市場への展開が期待される自動車や家電、建材なども含めた様々な産業分野での用途開発を促進します。

(AOIプロジェクトの推進)

- 農業の飛躍的な生産性向上や農業者の所得増大を図るため、革新的な栽培技術などの研究開発や、それらを活用した民間事業者による実用化を進めるとともに、生産現場への早期普及・展開を推進します。

(農業の競争力の強化)

- 地域農業の生産性、収益性の向上を図るため、農業生産基盤の整備と併せて、高度環境制御を導入した大規模施設園芸団地の施設整備を推進します。また、畜産クラスター事業等を活用した生産施設等の整備を支援することにより、既存畜産農家の規模拡大や大規模畜産企業の誘致を推進します。
- 豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の発生を防止するため、農場へのウイルス侵入防止対策指導に取り組むとともに、発生に備えた防疫体制の改善に取り組みます。

(林業の成長産業化)

- 林業イノベーションの推進、主伐・再造林の促進、森林認証材の供給拡大のほか、富士山麓のヒノキのブランドと森林認証を活かした地域産材製品の販路拡大、森林施業の集約化や路網整備を一体的に行う低コスト生産システムの定着に取り組みます。

(水産王国静岡の持続的発展)

- 地域の水産業の持続的発展を図るため、鮮魚及び水産加工品の県内外への新たな需要開拓に向けての新規流通体制の構築や、観光と連携した漁協直営食堂の運営支援、漁業基盤の機能強化と保全対策を行います。

(4) 魅力ある暮らしの実現

(美しく活力のある農山村の創造)

- 美しく活力のある農山村の創造に向け、農地、農業用施設等の地域資源の保全や、地域活性化に資する地域ぐるみの活動の支援、土地改良施設の耐震化や更新整備を推進します。また、世界遺産富士山の景観や文化を活用した交流の拡大に取り組みます。
- 野生鳥獣による農作物の被害を防止するため、防護柵の設置、管理捕獲・被害防止目的の捕獲等の対策強化、アドバイザーや捕獲の担い手の育成、防除技術の開発を進めます。また、関係者による組織づくりを促進することにより、市町の鳥獣被害対策の実施体制の強化を支援します。

(地域住民が憩い楽しむ場の提供)

- 県民がスポーツを楽しみ、自然と親しむ場を提供するため、愛鷹広域公園においてスポーツの拠点機能の強化や環境保全・環境学習機会の提供に取り組みます。
- 子どもたちの学びの場として、また、地域の交流の場として、静岡県富士山こどもの国において子どもたちが創造性を発揮できる遊びの提供や、富士山の魅力の発信を行います。
- 海岸防災林が、防風や防潮、津波に対する被害の軽減だけでなく、散歩や自然観察のフィールド、優れた景観などを提供し、地域の賑わいを創出する「市民の憩いの場」となるよう、適切な管理に取り組みます。

(移住・定住の促進)

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、暮らし方や働き方の多様化が進んでいることから、東部地域の魅力等、移住検討者の個々のニーズに応じた情報発信の強化や相談体制の充実を図り、移住・定住を促進します。

(環境に配慮した快適な社会の形成)

- 再生可能エネルギーの導入拡大、技術革新の推進、吸収源対策の推進、エネルギーの地産地消など持続可能な地域社会の形成に取り組みます。

- 田子の浦港では、官民でカーボンニュートラルポート（CNP）の形成に取り組み、脱炭素社会の実現への貢献を図ります。

（快適で安全なまちづくりの推進）

- コンパクトなまちづくりの推進に向け、都市の拠点となるJR駅周辺地区等について、都市基盤の整備、市街地開発事業等による都市拠点にふさわしい中心市街地の整備を行う市町を支援します。
- 魅力ある広域的な拠点都市づくりに向け、沼津市との連携により、連続立体交差事業、土地区画整理事業等を柱とする沼津駅周辺総合整備事業を推進し、交通の円滑化や南北市街地の一体化、新たな賑わいを生む都市空間の創出を図ります。

（地域コミュニティの活性化）

- 持続可能な地域コミュニティを形成するため、県・市町連携による地域課題の解決方策の検討や、地域活動を牽引するリーダー等の養成、コミュニティ施設整備を推進する市町の支援に取り組みます。

（5）地域の魅力の向上と発信

（世界遺産富士山の後世への継承）

- 世界遺産富士山の後世への継承に向け、遺産影響評価制度の運用や県民向け講座等を行うとともに、新しい生活様式に即した富士登山マナーの周知啓発や登山道における感染症対策、富士宮口五合目における来訪者の受け入れ体制の構築等、登山の安全性・快適性の確保を実現する取組を進めます。
- 世界遺産富士山の構成資産となっている文化財の保全と活用に向け、関係市町への支援を行います。
- 富士山の世界文化遺産としての価値の理解を促進するため、富士山麓の周遊を促進し、富士山五合目を含めた各構成資産での情報提供を強化するとともに、富士山世界遺産センターでの研究、展示の充実を図ります。

（富士山の自然環境の保全）

- 富士山の自然環境を保全するため、植生の復元や保全、外来植物対策などに取り組みます。また、啓発冊子や多言語でのマナーブックの作成等により、自然環境保全意識の高揚を図ります。
- 富士山からごみを一掃するため、環境の美化を図るとともに、富士山周辺の不法投棄を防止します。また、富士山に残存する産業廃棄物の撤去活動を行う非営利団体や市町を支援します。

（富士山周辺の景観形成）

- 富士山周辺の良好な景観の形成のため、広域景観協議会等を通じ市町と連携を図りながら、世界遺産構成資産、鉄道駅、高速道路IC等の重点箇所を中心とした富士山の眺望を阻害するものの整除を一層推進するとともに、周囲の景観と調和した観光地の景観形成や眺望景観のPRなどに取り組みます。

（自然公園等の適切な管理）

- 人々の自然環境の保全への理解を深めるとともに、自然公園の所在する地域の活性化を図るため、富士箱根伊豆国立公園を中心に、国、関係市町等との連携により、公園計画等に沿った安全で快適な自然公園の利用を促進します。

（東京2020オリンピック・パラリンピック自転車競技大会レガシーの活用）

- オリンピック・パラリンピックを契機としたレガシーを活用し、国内外の方々から憧れを呼ぶ「スポーツの聖地」の実現に向け、スポーツへの関心・意欲が県民に根付く取組を進めるとともに、「新しい生活様式」を踏まえた様々なスポーツイベントを開催するなど、戦略的な広報や機運の醸成等を推進し、スポーツをする人・観る人の人数増加を図ります。

（「サイクルスポーツの聖地」の実現に向けた取組）

- 国内外から多くのサイクリストが訪れる「サイクルスポーツの聖地」の実現に向け、オリンピック・パラリンピックを契機としたレガシーを活用するとともに、サイクリストの受入環境の整備、自転車走行環境の整備・改善、県民が自転車に親しむ機会の創出、サイクリングを活用した海外交流に取り組みます。

(文化を創造・発信する活動の推進)

- 県内各地を題材・素材にした全国公募の「伊豆文学賞」を実施し、東部・伊豆地域で表彰式や伊豆文学塾等の伊豆文学フェスティバルを開催することにより、文学の地として名高い伊豆・東部地域等の多彩な地域文化を創造・発信します。

(県民主体の創造的な活動の推進)

- 創造的な地域社会を形成するため、アーツカウンシルしずおかをプラットフォームとして、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など様々な分野と文化芸術を結び付け、文化財や空き家を活用したプロジェクトなど、地域課題への対応や地域活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

(6) 多彩な交流の拡大

(関係者との連携による観光サービス産業の振興)

- 国内外からの来訪者のニーズを的確に捉えた観光地域づくりが推進されるよう、静岡県DMO会議の開催等により、各種関係団体や県域DMO「静岡ツーリズムビューロー」(TSJ)との連携を促進します。

(多彩な観光資源を活用した「しずおかサステナブルツーリズム」の推進)

- 国内外からの来訪を促進するため、富士山の自然や東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーであるサイクルスポーツ、大河ドラマの放送で注目を集める歴史・文化、多彩で高品質な食と食文化など、地域の様々な魅力を活用した付加価値の高い観光サービスの創出により誘客を図る取組を支援します。
- 「新しい生活様式」に対応した新たな需要を獲得するため、ワーケーションの本県観光地域への受入れを促進します。

(道路網の強化)

- 広域交通ネットワークの形成・充実を図るため、国や中日本高速道路株式会社に対し、新東名高速道路(新御殿場インターチェンジより東側)や東駿河湾環状道路西区間の整備推進とともに、高速道路の利便性向上のためスマートインターチェンジの整備推進の働きかけを行います。
- 高度経済成長期に集中的に建設された橋やトンネルなど、道路施設の急速な老朽化に備え、劣化の進行を適切に予測し計画的な補修を行う「予防保全管理」により、道路施設の長寿命化を図ります。

(沼津港みなとまちづくり)

- 沼津港を県東部の賑わいを創出する拠点としていくため、沼津市との連携により、「沼津港みなとまちづくり推進計画」に則して駿河湾や富士山の眺望と港の風情が調和した「高質な水辺空間」の魅力を発揮させ、地域の人々や訪れる人々が憩う「みなとまちづくり」を推進します。

(田子の浦港の機能強化と利用促進)

- 物流拠点である田子の浦港の機能強化を図るため、長寿命化対策の推進、泊地・航路の浚渫を進めます。また、富士市や関係団体と連携し、水産業や地域資源を生かした港の賑わいづくりを推進します。

(富士箱根伊豆地域・「環富士山」連携の推進)

- 富士箱根伊豆地域における広域課題の解決に向け、観光振興や防災対策、環境対策など、山梨・静岡・神奈川三県の連携による取組を推進します。
- 「環富士山」の広域的な振興を図るため、観光振興、世界遺産富士山の情報発信、医療健康産業の振興など、山梨県等との連携による取組を推進します。

3 中部地域

❖ 目指す姿

『空・海・陸のネットワークと豊かな歴史・文化で世界の人々が集う中枢都市圏』

- コロナ禍を踏まえ、感染症の再拡大や社会経済の大きな変化に対して、柔軟で強靱な地域
- 世界に開かれた富士山静岡空港や清水港の交流機能と、それらをつなぐ高規格道路による広域交通ネットワークが充実し、一体的に発展する地域
- 歴史と伝統が息づく本県の中心地として、また、学術、文化芸術の創造の場として、洗練された魅力を持ち、国内外から多くの来訪者が集う地域
- 食品関連産業の集積と、伝統的な技術を活かした地域企業の競争力の強化が進み、多彩な産業が力強く展開する地域
- 脱炭素社会や循環型社会の形成に向け、南アルプスの生物多様性の保全、エネルギーの地産地消、スマートシティの形成により「地域循環共生圏」の形成を促進する地域

❖ 地域資源・基盤施設



❖ 主な施策の基本方向

(1) 安全・安心な地域の形成

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を早期に収束させるとともに、新しい感染症や再流行の感染症などの拡大に備え、まん延防止のための体制を構築します。
- 住民の早期避難意識の向上や多様な避難の促進など地域防災力の向上を図るとともに、「静岡モデル防潮堤」の整備等の地震・津波対策、近年激甚化する風水害に備えたハード・ソフト両面による対策、原子力発電所の安全対策を推進し、地域住民の安全を確保します。
- 県立病院機構3病院において、高度・専門・特殊医療の提供や医療人材の育成などの取組を推進し、地域医療の中心的機能の強化を図ります。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

- 地域の特性を活かし、脱炭素とSDGsを実現する「地域循環共生圏」の形成を推進します。
- 南アルプスの自然環境や大井川流域の茶産業など、雄大な自然の恵みを活かした産業を展開します。
- 「命の水」を継承し、自然と共生しながら都市と交流する圏域を形成します。
- 富士山静岡空港や清水港、高規格道路による交流機能の充実を図ります。

(3) 富をつくる産業の展開

- 産学官金の連携によるフーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの推進、家具や模型などの地域産業の活性化に取り組み、中枢都市圏の発展を支える産業の振興を図ります。
- 茶やみかんなどの生産性の向上、主伐・再造林や地域産材利用の促進を図り、農林業の競争力を強化するとともに、漁業高等学園や水産・海洋技術研究所、焼津漁港を拠点として持続的に発展する水産業の基盤づくりに取り組みます。

(4) 魅力ある暮らしの実現

- 美しく活力ある農山村の創造や県営都市公園における地域住民が憩い楽しむ場の提供に取り組むとともに、ライフステージに応じた働き方、暮らし方の提案により県外からの移住・定住を促進し、人々が住み続け、住みたいと思える地域を形成します。
- 過疎地域における社会基盤の整備、地域活性化を推進する人材の育成等を支援し、持続可能で活力ある地域を形成します。

(5) 地域の魅力の向上と発信

- SPACの活動を核とした「演劇の都」づくりの推進や、アーツカウンシルしずおかの支援のもと、県民主体の創造的な活動の推進を通じて、地域資源の魅力の向上や交流の拡大を図ります。
- 三保松原や大井川流域・牧之原台地の茶園などの特色ある景観の形成や、南アルプスの自然環境の保全に取り組み、美しい景観の創造と自然との共生を実現します。

(6) 多彩な交流の拡大

- DMOの機能強化や各種団体との連携強化を図り、南アルプスや歴史・文化の魅力を活用したテーマ性を持った「しずおかサステナブルツーリズム」を推進し、世界に輝く観光交流圏を目指します。
- 富士山静岡空港の競争力強化、清水港みなとまちづくり、地域高規格道路をはじめとする道路網の強化に取り組み、「空・海・陸」の広域交通ネットワークの充実を図ります。

- 山梨県や長野県との連携による取組を推進するとともに、南アルプスユネスコエコパークを構成する市町村の連携を促進し、「環南アルプス」の広域的な振興を図ります。

成果指標	現状値	目標値
富士山静岡空港の利用者数	(2020年度) 11.7万人	105万人
清水港のコンテナ船東南アジア航路における寄港便数	(2020年度) 10便/週	11便/週
移住相談窓口等を利用した県外から中部地域への移住者数	(2020年度) 460人	545人
ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナー（南アルプスプロジェクト）の委嘱数	(2020年度) 1件	累計10件

❖ 主な取組

(1) 安全・安心な地域の形成

(感染症拡大に対する危機管理体制の強化)

- 新型コロナウイルス等の感染症について、地域局、市町、事業者等との連携を強化し、発生や拡大に備えた準備を進めます。

(地域防災力の強化)

- 多様な避難を促進するため、在宅避難や親戚・知人宅への避難について啓発を図るとともに、地域の公民館を「防災コミュニティセンター」として整備し、新たに避難所として位置付ける取組を支援するなどします。
- 県民の早期避難意識を高め、災害発生時に適切な行動ができるよう、災害リスクや地域特性に応じた住民一人ひとりの「わたしの避難計画」の普及を図ります。

(津波対策の推進)

- 津波等による被害の軽減を図るため、防潮堤の整備、河口部の水門の耐震化、港湾・漁港における堤防の嵩上げなど、津波対策施設等の整備を推進します。

(風水害対策の推進)

- 風水害から命と暮らしを守るため、巴川水系、瀬戸川水系等における河川や排水施設の整備、土砂災害防止施設等の整備、既存施設の長寿命化対策等のハード対策に加え、市町の避難体制整備の支援などのソフト対策を推進します。また、安倍川流砂系や大井川流砂系における総合的な土砂管理による海岸侵食対策を推進します。

(原子力発電所の安全対策)

- 原子力発電所と周辺環境の安全確保のため、事業者による発電所の安全対策及び情報公開の徹底を図ります。また、原子力防災対策に万全を期すため、原子力防災訓練や原子力防災資機材の整備・維持管理等を実施していきます。

(静岡県立病院機構による高度専門医療の提供)

- 静岡県立病院機構では、各病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、新たな感染症にも対応できるよう、機動的な病院運営を目指します。また、県と連携した医師確保対策や社会健康医学の研究への協力など、主要な政策的課題にも取り組んでいきます。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

(環境と調和した循環型社会への移行・自然との共生の実現)

- 地域特性に応じた地域資源の循環モデルを創出します。食品関連産業が集積しており、県工業技術研究所と県内企業が開発した、食物残さから新たなエネルギーを生み出す実証プラントの実装化を進めます。
- ユネスコエコパークに認定され、「世界の宝物」とも言われる南アルプスなどの生物多様性や自然環境の保全に取り組み、人々の命や生活、社会、産業を守り、将来にわたり持続可能な地域づくりを進めます。

(まちづくり、住宅・建築物、交通システムのリデザイン（再設計）)

- 食文化と観光を結びつける「ガストロノミーツーリズム」とともに、歴史・文化資源などを活かした新たな観光戦略を展開します。
- 中部横断自動車道の開通などによる交流・経済圏の拡大に対応した、「バイ・ふじのくに」などの新たな地域主導型の経済政策「フジノミクス」を積極的に展開します。また、富士山静岡空港の脱炭素空港化や清水港のカーボンニュートラルポート（CNP）などの取組を推進します。

(環境共生型への再生可能エネルギー等の導入促進)

- 官民が連携して、再生可能エネルギーの導入促進を図るとともに、水素エネルギーについても導入に向けた取組を支援します。

(産業構造の転換に向けた取組)

- 農業の生産性向上と収益拡大を目指し、AIやドローン等の先端技術を活用したスマート農業を促進します。ChaOIプロジェクトを推進し、担い手の確保・育成から農地集積の促進、産出額の増加などを図るとともに、「天空の茶園」や茶産地体験型のグリーンツーリズムなどを展開し、新たなお茶の魅力を創出していきます。
- CO₂の吸収源対策に資する森林資源の循環利用を促進するため、ITやドローン等の先端技術を活用して効率的な路網や生産団地の整備を進め、認証林工リアの拡大を図り、県産材の供給体制を整えます。
- 県水産・海洋技術研究所による高度な実証研究により、サクラエビなどの水産資源の回復に取り組みとともに、サガラメなどの藻場の回復にも取り組みます。また、MaOIプロジェクトの推進により、最先端のマリンバイオテクノロジーを医薬品や食品、水産などの分野に応用し、新たな先端産業を創出します。そこでは海洋資源管理や海洋環境保全の研究開発にも取り組みます。
- 2050年のカーボンニュートラルの目標に向け、市町や経済団体等と連携しながら、取組を推進します。「次世代自動車センター浜松」を中心に、中小企業等のCASE対応への支援を強化します。
- フーズ・ヘルスケアプロジェクトを展開し、食品関連産業、ヘルスケア産業の集積を目指します。県立大学などと連携して、食とヘルスケアに関するエビデンスの蓄積を図り、新たな産業創出につなげていきます。また、機能性食品の開発支援に注力し、企業の新製品開発を促進します。

(3) 富をつくる産業の展開

(フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの推進)

- 中核支援機関であるフーズヘルスケアオープンイノベーションセンターを中心に、機能性食品や化粧品、ビックデータ等を活用したヘルスケアサービスなど、地域企業が取り組む時代に即した競争力のある高付加価値な商品の開発を促進します。

(地域産業の振興)

- 地場産業と地域商業の活性化を図るため、デザインによる製品・サービスの高付加価値化とブランド力の強化、家具をはじめとする県産品の地産地消と販路開拓を促進します。

(農業の競争力の強化)

- 茶園、みかん園等の基盤整備の進捗と併せて、担い手への農地の集積・集約化を一層推進し、生産の効率化を図ります。また、茶業経営の維持・発展に向け、「ChaOI プロジェクト」を推進し、需要に対応した茶の生産構造の転換を図ります。
- 豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の発生を防止するため、農場へのウイルス侵入防止対策指導に取り組むとともに、発生に備えた防疫体制の改善に取り組みます。

(林業の成長産業化)

- 林業イノベーションの推進、主伐・再造林の促進、森林認証材の供給拡大のほか、多彩な地域産材製品を生産する製材・加工工場のネットワークによる販路拡大、森林施業の集約化や、架線集材と路網整備の組み合わせによる安定供給体制の構築に取り組みます。

(水産王国静岡の持続的発展)

- 地域の水産業の持続的発展を図るため、サクラエビの資源回復に向けた取組、シラス等の新規流通ルートの開拓、漁業高等学園、水産・海洋技術研究所を拠点とした人材育成や技術研究、新商品開発支援など、本県の漁業を支える基盤づくりを推進します。
- 国内屈指の水産物流通拠点である焼津漁港の機能の強化と事業継続性の向上を図るため、荷捌き施設、冷凍施設等の整備を支援するとともに、漁船の大型化に対応した施設の整備や改良のほか、防波堤の粘り強い構造化などの減災対策を進めていきます。

(4) 魅力ある暮らしの実現

(茶の都づくり)

- 茶の産業と文化の振興、茶を通じた交流の拡大を図るため、「ふじのくに茶の都ミュージアム」を拠点として、茶に関する文化、学術、産業の各分野の情報の収集・発信に取り組み、静岡茶の魅力在国内外に伝えます。

(美しく活力のある農山村の創造)

- 美しく活力のある農山村の創造に向け、農地、農業用施設等の地域資源の保全や、地域活性化に資する地域ぐるみの活動の支援、土地改良施設の耐震化や更新整備を推進します。また、茶園の景観や茶文化を活用した交流の拡大に取り組みます。
- 野生鳥獣による農産物の被害を防止するため、防護柵の設置、管理捕獲・被害防止目的の捕獲等の対策強化、アドバイザーや捕獲の担い手の育成、防除技術の開発を進めます。また、関係者による組織づくりを促進することにより、市町の鳥獣被害対策の実施体制の強化を支援します。

(地域住民が憩い楽しむ場の提供)

- 地域を代表する競技施設を有する運動公園として、また、市街地の中の憩いの場として、静岡県草薙総合運動場における競技環境の充実、快適な緑地空間の提供など、利用者サービスの向上に取り組みます。
- 吉田公園において、気軽に園芸を学び参加できる場を提供するとともに、誰もが安心して利用できる場を目指し、県民参加の公園運営を実践します。
- 海岸防災林が、防風や防潮、津波に対する被害の軽減だけでなく、散歩や自然観察のフィールド、優れた景観などを提供し、地域の賑わいを創出する「市民の憩いの場」となるよう、適切な管理に取り組みます。併せて、「静岡モデル防潮堤」の防災・減災効果について積極的な情報発信を行っていきます。

(移住・定住の促進)

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、暮らし方や働き方の多様化が進んでいることから、中部地域の魅力等、移住検討者の個々のニーズに応じた情報発信の強化や相談体制の充実を図り、移住・定住を促進します。

(環境に配慮した快適な社会の形成)

- 再生可能エネルギーの導入拡大、技術革新の推進、吸収源対策の推進、エネルギーの地産地消など持続可能な地域社会の形成に取り組みます。
- 清水港、御前崎港では、官民でカーボンニュートラルポート（CNP）の形成に取り組み、脱炭素社会の実現への貢献を図ります。

（快適で安全なまちづくりの推進）

- 人口減少社会においても活力あるまちづくりを推進するため、中心市街地活性化の取組等と連携した都市基盤の整備、市街地開発事業等によりコンパクトなまちづくりを進める市町を支援します。

（過疎地域の振興）

- 過疎地域の振興を図るため、県代行事業による基幹的市町道、林道などの社会基盤の整備を推進します。また、税制優遇を活用した企業誘致の促進や地域活性化を推進する人材の育成等により地域の持続的発展を支援します。

（地域コミュニティの活性化）

- 持続可能な地域コミュニティを形成するため、県・市町連携による地域課題の解決方策の検討や、地域活動を牽引するリーダー等の養成、コミュニティ施設整備を推進する市町の支援に取り組みます。

（5）地域の魅力の向上と発信

（文化とスポーツの殿堂の形成）

- 東静岡駅南北が一体となった「文化とスポーツの殿堂」の形成に向け、県立中央図書館の整備と並行して、賑わいや交流ができる魅力的な場所となるよう、静岡市と連携を図りながら、南口県有地の活用を進めます。

（文化を創造・発信する活動の推進）

- 令和3年度に策定した「演劇の都」構想に基づき、SPACの公演とともに演劇人材の育成や舞台芸術公園と周辺観光施設の連携を進め、本県の文化的魅力を国内外に向けて発信します。

（県民が文化芸術に触れる機会の拡充）

- 県民が芸術に親しみ、創造性を高める機会を充実するため、県立美術館やふじのくに地球環境史ミュージアムでの魅力的な企画や収蔵品データのデジタル活用を実施するとともに、グランシップを通じた音楽や伝統芸能等の多彩な企画事業の実施を支援します。

（県民主体の創造的な活動の推進）

- 創造的な地域社会を形成するため、アーツカウンスルしずおかをプラットフォームとして、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など様々な分野と文化芸術を結び付け、大井川流域を核とした芸術祭やアートツーリズムなど、地域課題への対応や地域活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

（美しい景観の形成）

- 三保松原の景観改善や保全を図るため、防護と景観を高いレベルで調和させる新たな突堤等の整備や、松林の管理を担う静岡市への技術支援を行います。
- 大井川流域・牧之原大茶園の良好な景観の形成のため、広域景観協議会等を通じ市町と連携を図りながら、集落と茶園のつながり等を踏まえた重点区域を中心とした茶園景観の保全・情報発信、防護柵等の景観配慮や屋外広告物の適正化等による沿道景観の形成に取り組みます。
- 本県の空の玄関口にふさわしい景観の形成に向け、富士山静岡空港周辺において、市町と連携して屋外広告物の形態・意匠の規制・誘導に取り組みます。

（自然公園等の適切な管理）

- 南アルプスの豊かな自然環境を保全するため、関係市町等との連携により、南アルプスユネスコエコパークにおけるニホンジカの食害防止対策など、高山植物をはじめとする動植物の保護対策を推進します。また、リニア中央新幹線をはじめとする大規模開発事業等を行う事業者に対し、環境影響評価法、県条例等に基づき、環境の保全について万全な措置がなされるよう取り組みます。

(6) 多彩な交流の拡大

(関係者との連携による観光サービス産業の振興)

- (公財) するが企画観光局を中心に国内外からの来訪者のニーズを的確に捉えた観光地域づくりが推進されるよう、静岡県DMO会議の開催等により、各種関係団体や県域DMO「静岡ツーリズムビューロー」(TSJ)との連携を促進します。

(多彩な観光資源を活用した「しずおかサステナブルツーリズム」の推進)

- 国内外からの来訪を促進するため、南アルプス、大井川、駿河湾等のバラエティに富んだ自然、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーであるサイクルスポーツ、大河ドラマの放送で注目を集める、久能山東照宮や旧東海道の峠・宿場文化をはじめとする歴史文化、多彩で高品質な食と食文化など、地域の様々な魅力を活用した付加価値の高い観光サービスの創出により誘客を図る取組を支援します。
- ワークेशनやマイクロツーリズムなど、旅行者の行動変容等に対応した新たな需要の獲得に向けた観光事業者等の取組を支援します。

(道路網の強化)

- 地域の経済や暮らしを支える基盤を形成するため、富士山静岡空港、新東名高速道路、御前崎港等と連結する地域高規格道路、インターチェンジアクセス道路の整備を推進するとともに、高速道路の利便性向上のためスマートインターチェンジの整備推進の働きかけを行います。
- 高度経済成長期に集中的に建設された橋やトンネルなど、道路施設の急速な老朽化に備え、劣化の進行を適切に予測し計画的な補修を行う「予防保全管理」により、道路施設の長寿命化を図ります。

(清水港の機能強化と利用促進)

- 産業の競争力を支える清水港の機能強化に向け、船舶の大型化に対応した港湾機能の整備や防災力の強化を進めます。また、官民連携による清水港ポートマーケティングを推進し、外航定期コンテナ船、RORO船の航路数や便数の維持・増加を図ります。

(清水港みなとまちづくりの推進)

- 港と中心市街地が融合した一体的な魅力ある「みなとまちづくり」の実現に向けて、官民で取り組んでいきます。これまでの寄港誘致活動に加え、静岡市の進める海洋文化拠点整備を注視しつつ、「みなとまちづくり」の推進に取り組んでいきます。

(競争力の高い富士山静岡空港の実現)

- ウィズコロナ期における航空需要の回復や多様な交流の再興に向け、ターゲットに応じた利用促進や情報発信、多様な旅行形態に対応した旅行商品づくりの働き掛け、観光デジタル情報プラットフォームの活用など、新しい生活様式に対応した旅行需要の喚起やデジタル化への対応等に、運営権者や富士山静岡空港利用促進協議会と連携して取り組みます。

(富士山静岡空港を拠点とした地域の魅力づくりの推進)

- 多様な交流と賑わいの拠点化に向け、民間事業者の意向を踏まえつつ、「富士山静岡空港西側県有地活用方針」に沿い、民間活力を活用して空港西側県有地の一体的かつ計画的な整備を進めます。
- 観光施設等の地域資源を活かした空港周辺の賑わいを創出するため、地元市町を含む多様な主体との連携を進めるとともに、市町の魅力あるまちづくりを支援します。

(「環南アルプス」連携の推進)

- 「環南アルプス」の広域的な環境保全、地域振興等を図るため、食の魅力発信、エコツーリズムによる交流人口の拡大や道路等生活基盤の整備など、静岡・山梨・長野三県の連携による取組を推進するとともに、「南アルプスユネスコエコパーク」を構成する市町村の連携を支援します。

4 西部地域

❖ 目指す姿

『世界トップクラスの技術と豊かな自然の恵みで新たな価値を生み出す創造都市圏』

- コロナ禍を踏まえ、感染症の再拡大や社会経済の大きな変化に対して、柔軟で強靱な地域
- 脱炭素社会に向けたオープンイノベーションの世界的な拠点として、水・エネルギー・経済の「地域循環共生圏」の形成
- 自動車産業の100年に一度の大変革に的確に対応し、次世代モビリティの開発を官民を挙げて取り組み世界をリードする地域
- 光・電子技術関連産業の集積と、次世代産業の形成、地域企業の新成長分野への参入が進み、多彩な産業が展開する地域
- 美しい浜名湖、多彩な文化、豊富な食材や花をはじめとする地域の魅力が高まり、文化・観光・スポーツ等の多様な交流が活発に行われる地域
- 産業や文化の多様性を育みながら、これを交流・革新の源泉として、新たな価値を創造し、力強く発展する地域

❖ 地域資源・基盤施設



❖ 主な施策の基本方向

(1) 安全・安心な地域の形成

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を早期に収束させるとともに、新しい感染症や再流行の感染症などの拡大に備え、まん延防止のための体制を構築します。
- 住民の早期避難意識の向上や多様な避難の促進など地域防災力の向上を図るとともに、海岸防災林の高上と再生による「静岡モデル防潮堤」の整備等の地震・津波対策、近年激甚化する風水害に備えたハード・ソフト両面による対策、原子力発電所の安全対策を推進し、地域住民の安全を確保します。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

- 地域の特性を活かし、脱炭素とSDGsを実現する「地域循環共生圏」の形成を推進します。
- 「新しい静岡時代」を牽引する環浜名湖の循環共生圏（水・エネルギー・経済）の形成に取り組むことで、脱炭素社会に向けて2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを先端技術開発でリードする世界的拠点の形成を図ります。地域循環共生圏をベースに、「レイクハマナ未来都市構想」として、市町、産業界などととも、実現を目指します。

(3) 富をつくる産業の展開

- 産学官金の連携によるフォトンバレープロジェクトの推進や成長産業分野への地域企業の参入の促進により、光・電子技術を活用した次世代産業の創出や地域企業の新たな事業展開を促進します。
- カーボンニュートラルの実現に向けて2035年までに軽自動車を含む乗用車の新車販売の全てを電動車とする国の目標への対応など、自動車産業が迎えている大変革期を官民を挙げて乗り切るため、地域企業の電動化・デジタル化への取組を支援し、本県自動車産業の持続的な発展を実現します。
- 企業的経営を行う農業経営体の創出を図るとともに、特色ある農林水産物のブランド力の強化、天竜材の供給拡大と利用の促進、ウナギやアサリの適切な資源管理に取り組み、農林水産業の持続的な発展を実現します。

(4) 魅力ある暮らしの実現

- 美しく活力ある農山村の創造や県営都市公園における地域住民が憩い楽しむ場の提供に取り組むとともに、魅力ある暮らしの情報発信の強化により県外からの移住・定住を促進し、人々が住み続け、住みたいと思える地域を形成します。
- 過疎地域の活性化、天竜浜名湖鉄道の経営強化や、快適で安全なまちづくりに取り組み、持続可能で活力ある地域を形成します。

(5) 地域の魅力の向上と発信

- 静岡国際オペラコンクールの開催を通じた音楽文化の創造、浜名湖周辺の自然環境の保全や良好な景観の形成に取り組み、世界クラスの地域資源の魅力の向上を図ります。

(6) 多彩な交流の拡大

- DMOの機能強化や各種団体との連携強化を図り、浜名湖をはじめとする自然や歴史・文化、地域で育まれた多様な産業の魅力を活用したテーマ性を持った「しずおかサステナブルツーリズム」を推進し、世界に輝く観光交流圏を目指します。
- 三遠南信自動車道や高規格道路を中心とする道路網の強化、御前崎港の機能強化と利用促進に取り組

み、多彩な交流を支える広域交通ネットワークの充実を図ります。

- 愛知県や長野県との連携による取組を推進し、三遠南信地域の広域的な振興を図ります。

成果指標	現状値	目標値
次世代自動車分野における事業化件数 (先端産業創出プロジェクト)	(2019～2020年度) 累計 20 件	(2022～2025年度) 累計 44 件
西部地域の農業産出額	(2019年) 999 億円	1,216 億円
西部地域の宿泊客数	(2020年度) 186 万人泊	420 万人泊
移住相談窓口等を利用した県外から西部 地域への移住者数	(2020年度) 293 人	345 人

❖ 主な取組

(1) 安全・安心な地域の形成

(感染症拡大に対する危機管理体制の強化)

- 新型コロナウイルス等の感染症について、地域局、市町、事業者等との連携を強化し、発生や拡大に備えた準備を進めます。

(地域防災力の強化)

- 多様な避難を促進するため、在宅避難や親戚・知人宅への避難について啓発を図るとともに、地域の公民館を「防災コミュニティセンター」として整備し、新たに避難所として位置付ける取組を支援します。
- 県民の早期避難意識を高め、災害発生時に適切な行動ができるよう、災害リスクや地域特性に応じた住民一人ひとりの「わたしの避難計画」の普及を図ります。

(津波対策の推進)

- 中東遠地域における津波被害を軽減するため、各市が実施する「静岡モデル」の防潮堤の嵩上げと連携し、防災林の再整備・機能強化を図る“ふじのくに森の防潮堤づくり”を推進します。整備に必要な土砂量を確保するため、今後も県内外の発生土について広く情報収集を行い、整備率の向上を図っていきます。

(風水害対策の推進)

- 風水害から命と暮らしを守るため、馬込川水系、太田川水系等における河川整備、排水施設整備、土砂災害防止施設等の整備、既存施設の長寿命化対策、電力会社や市町と連携して取り組む予防伐採（電線に近い木の枝を切り離す作業）等のハード対策に加え、市町の避難体制整備の支援等のソフト対策を推進します。また、天竜川流砂系における総合的な土砂管理による海岸侵食対策を推進します。

(原子力発電所の安全対策)

- 原子力発電所と周辺環境の安全確保のため、事業者による発電所の安全対策及び情報公開の徹底を図ります。また、原子力防災対策に万全を期すため、原子力防災訓練や原子力防災資機材の整備・維持管理等を実施していきます。

(2) 「地域循環共生圏」の形成

(環境と調和した循環型社会への移行・自然との共生の実現)

- 地域特性に応じた地域資源の循環モデルを創出します。循環経済に不可欠な、廃棄物を再生して資源化する技術革新を促進するため、法令の改正等を国に要望していきます。

- 浜名湖などにおいて減少するアサリなどの水産資源の回復に、大学や研究機関と連携して取り組みます。
- 「レイクハマナ未来都市構想」を策定し、「『ふじのくに』のフロンティアを拓く取組」に位置づけることで、本県の脱炭素とSDGsの実現を目指す「地域循環共生圏」の形成を牽引していきます。

(まちづくり、住宅・建築物、交通システムのリデザイン（再設計）)

- スマートシティの形成に向け、スタートアップやベンチャーなどとの連携を強め、新交通サービス（MaaS）などの積極的な導入を図ります。また、官民が連携して推進する田園都市エリアの形成やスポーツエリアの形成に当たり、再生可能エネルギーの導入等を推進します。
- 食文化と観光を結びつける「ガストロノミーツーリズム」とともに、歴史・文化資源などを活かした新たな観光戦略を展開します。

(産業構造の転換に向けた取組)

- 農業の生産性向上と収益拡大を目指し、AIやドローン等の先端技術を活用したスマート農業を促進します。世界農業遺産「茶草葉農法」を保全するなど、お茶の伝統や歴史を大切に継承するとともに、茶業の再生に向け、茶業研究センター（ChaOI-PARC）をオープンイノベーションの拠点として再整備します。
- CO2の吸収源対策に資する森林資源の循環利用を促進するため、ITやドローン等の先端技術を活用して効率的な路網や生産団地の整備を進め、認証林エリアの拡大を図り、県産材の供給体制を整えます。
- 2050年のカーボンニュートラルの目標に向け、市町や経済団体等と連携しながら、取組を推進します。「次世代自動車センター浜松」を中心に、中小企業等のCASE対応への支援を強化します。
- フォトンバレーセンターを中核として、様々な領域への光・電子技術の産業応用を図り、先端産業を創出していきます。

(3) 富をつくる産業の展開

(次世代自動車開発の推進)

- 本県の基幹産業である自動車産業の持続的な発展を目指し、次世代自動車の部品開発や製造に向けた地域企業の技術力の向上のため、次世代自動車センター浜松を中核支援機関として、固有技術の高度化やEV部品の分解・展示などのベンチマーク活動、試作品製作などへの支援を強化します。

(フォトンバレープロジェクトの推進)

- 中核支援機関であるフォトンバレーセンターを中心に、光・電子技術の活用を目指す企業の課題を解決する「A-SAP」や早期事業化に向けた助成を行うほか、レーザー加工の基礎から産業応用までを理解し、主体的に製品戦略を構築できる中核人材を育成します。

(成長産業分野への地域企業の参入促進)

- 地域企業の成長産業分野への参入を促進するため、浜松工業技術支援センターにおいて、次世代自動車、IoT等に対応した試験検査機器の計画的な整備を進め、技術相談や依頼試験、機器使用により、電子機器の商品開発を支援します。
- 空飛ぶクルマ（eVTOL）やドローン等の次世代航空機を含む航空宇宙産業への中小企業の参入を促進するため、新規参入に必要な品質認証取得、設備投資や人材育成に対する助成、コーディネーターによる参入企業のサポートなどの支援をします。
- 浜松地域イノベーション推進機構が実施する中小企業の技術力の強化のためのビジネスマッチング、人材育成事業などを支援します。

(地域産業の振興)

- 遠州織物の振興を図るため、高い生産技術を持つ遠州織物の生産者による販売ルートの拡大等の取組

の支援や、遠州織物を素材としたビジネスシャツ等のPRを行います。

(農業の競争力の強化)

- 更なる生産性向上と規模拡大を促進するため、みかんや野菜の集出荷施設の整備やスマート農業技術の導入、水田を活用した露地野菜の生産拡大、担い手への農地集積、「ChaOI プロジェクト」による需要に対応した茶の生産構造の転換を進めます。また、農林環境専門職大学の円滑な運営に引き続き努めるとともに、さらなる教育研究内容の充実や学習環境の整備を進めます。
- 豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の発生を防止するため、農場へのウイルス侵入防止対策指導に取り組むとともに、発生に備えた防疫体制の改善に取り組みます。

(林業の成長産業化)

- 林業イノベーションの推進、主伐・再造林の促進、森林認証材の供給拡大のほか、品質の高さと森林認証を活かした天竜材製品の利用促進と製材・加工工場のネットワークによる販路拡大、架線集材と路網整備を組み合わせた効率的な供給体制の確立に取り組みます。

(水産王国静岡の持続的発展)

- 地域の水産業の持続的発展を図るため、ウナギやアサリの資源量回復、水産物のブランド化や多数の観光客を取り込む水産振興、漁業基盤の機能強化と保全対策に取り組みます。

(4) 魅力ある暮らしの実現

(多文化共生社会の形成)

- 外国人県民が誰一人取り残されることなく、安心して暮らし、活躍できる地域の形成に向け、「やさしい日本語」の普及活用推進、地域日本語教育体制の構築や異文化理解講座の開催、外国人県民の子どもの不就学実態把握と就学促進に取り組みます。また、「静岡県多文化共生総合相談センター かめりあ」を運営し、相談体制の充実を図ります。

(美しく活力のある農山村の創造)

- 美しく活力のある農山村の創造に向け、農地、農業用施設等の地域資源の保全や、地域活性化に資する地域ぐるみの活動の支援、土地改良施設の耐震化や更新整備を推進します。また、世界農業遺産「静岡の茶草場農法」が環境・景観の保全や地球温暖化の緩和に貢献していることをPRし、地域の活性化に取り組みます。
- 野生鳥獣による農産物の被害を防止するため、防護柵の設置、管理捕獲・被害防止目的の捕獲等の対策強化、アドバイザーや捕獲の担い手の育成、防除技術の開発を進めます。また、関係者による組織づくりを促進することにより、市町の鳥獣被害対策の実施体制の強化を支援します。

(地域住民が憩い楽しむ場の提供)

- 多彩な花・緑・水・庭と触れ合う場として、また、浜名湖の魅力の発信の場として、浜名湖ガーデンパークにおける園芸、庭園等の文化の発信に取り組むとともに、県民参加の公園運営を実践します。
- 県民がレクリエーションを楽しみ、自然と親しむ場を提供するため、遠州灘海浜公園において、レクリエーション拠点、自然環境の学習の場としての公園運営に取り組みます。
- 海岸防災林が、有事には津波に対する多重防御の一翼を担うだけでなく、平時には散歩や自然観察のフィールド、優れた景観などを提供し、地域の賑わいを創出する「市民の憩いの場」となるよう、“ふじのくに森の防潮堤づくり”を推進します。併せて、「静岡モデル防潮堤」の防災・減災効果について積極的な情報発信を行っていきます。

(移住・定住の推進)

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、暮らし方や働き方の多様化が進んでいることから、西部地域の魅力等、移住検討者の個々のニーズに応じた情報発信の強化や相談体制の充実を図り、移住・定住を促進します。

(環境に配慮した快適な社会の形成)

- 再生可能エネルギーの導入拡大、技術革新の推進、吸収源対策の推進、エネルギーの地産地消など持続可能な地域社会の形成に取り組みます。
- 御前崎港では、官民でカーボンニュートラルポート（CNP）の形成に取り組み、脱炭素社会の実現への貢献を図ります。

(快適で安全なまちづくりの推進)

- コンパクトなまちづくりの推進に向け、新たな拠点となるJR東海道本線御厨駅周辺地区等について、都市基盤の整備、市街地開発事業等による拠点にふさわしい市街地の整備を行う市町を支援します。

(天竜浜名湖鉄道の経営強化と利用促進)

- 地域住民の生活交通の確保と観光振興による地域の活性化を図るため、鉄道施設の安全対策に対する支援を行うとともに、沿線自治体と連携し、天竜浜名湖鉄道の利用者増加に資する事業に取り組みます。

(過疎地域の振興)

- 過疎地域の振興を図るため、税制優遇を活用した企業誘致や地域の魅力を活かした移住定住・地域間交流の促進等により、地域の持続的発展を支援します。

(地域コミュニティの活性化)

- 持続可能な地域コミュニティを形成するため、県・市町連携による地域課題の解決方策の検討や、地域活動を牽引するリーダー等の養成、コミュニティ施設整備を推進する市町の支援に取り組みます。

(5) 地域の魅力の向上と発信

(スポーツの聖地づくり)

- 多くの県民にスポーツを楽しむ環境を提供するため、浜松市西区篠原地区に野球場を核とする公園の整備に向けた検討を進めます。

(サイクルスポーツの聖地づくり)

- 東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーであるサイクルスポーツを活用し、全県でのサイクルツーリズムを振興するため、太平洋岸自転車道や浜名湖一周ルートなどの県内サイクルルートを活用し、地域に根ざしたサイクル施策の展開を図ります。

(小笠山総合運動公園の活用)

- 小笠山総合運動公園において、スポーツ全般を対象としたトップアスリートの観戦勧奨やスポーツを通じた学校教育などに取り組みます。また、大規模大会や合宿の誘致を進めるため、県内のスポーツコミッションの機能強化を図るとともに、エコパスタジアムを核とした大学、観光、医療機関など様々な関係者と連携体制の構築による地域活力の向上を目指します。

(文化を創造・発信する活動の推進)

- 国際コンクールとして世界的な評価を得ている静岡国際オペラコンクールを開催し、若手人材の輩出や世界レベルの音楽文化を推進し、世界に向けて本県の文化を発信します。

(県民主体の創造的な活動の推進)

- 創造的な地域社会を形成するため、アーツカウンスルしずおかをプラットフォームとして、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など様々な分野と文化芸術を結び付け、企業との連携によるまちづくりなど、地域課題への対応や地域活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

(浜名湖周辺の景観形成)

- 浜名湖周辺の良好な景観の形成のため、浜松市及び湖西市と連携を図りながら、主要な眺望点を有する浜名湖サイクリングロード沿いを中心とした沿道景観づくりや護岸等の公共施設の良好な景観形成、ビューポイントのPRなどに取り組みます。

(自然公園等の適切な管理)

- 桶ヶ谷沼自然環境保全地域や浜名湖県立自然公園など、県西部の優れた自然環境を保全するため、公園計画等の見直しを行い、適正な区域管理に取り組みます。

(6) 多彩な交流の拡大

(関係者との連携による観光サービス産業の振興)

- (公財) 浜松・浜名湖ツーリズムビューローを中心に国内外からの来訪者のニーズを的確に捉えた観光地域づくりが推進されるよう、静岡県DMO会議の開催等により、各種関係団体や県域DMO「静岡ツーリズムビューロー」(TSJ)との連携を促進します。

(多彩な観光資源を活用した「しずおかサステナブルツーリズム」の推進)

- 国内外からの来訪を促進するため、浜名湖をはじめとする自然、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーであるサイクルスポーツ、大河ドラマの放送で注目を集める歴史・文化、多彩で高品質な食と食文化など、地域の様々な魅力を活用した付加価値の高い観光サービスの創出により誘客を図る取組を支援します。
- ワークेशनやマイクロツーリズムなど、旅行者の行動変容等に対応した新たな需要の獲得に向けた観光事業者等の取組を支援します。
- 浜名湖観光圏域における観光・交流、産業の発展、防災などの取組を円滑に推進するため、インフラの一体的整備・活用を図ります。

(道路網の強化)

- 都市的地域と中山間地域の交流・連携に資する道路網の充実を図るため、国に対し、南北軸となる三遠南信自動車道の整備推進と浜松湖西豊橋道路の調査推進を働きかけ、更なる広域交通ネットワークの構築を進めます。
- 高度経済成長期に集中的に建設された橋やトンネルなど、道路施設の急速な老朽化に備え、劣化の進行を適切に予測し計画的な補修を行う「予防保全管理」により、道路施設の長寿命化を図ります。

(御前崎港の機能強化と利用促進)

- 産業の競争力を支える御前崎港の事業継続性を確保し、国際物流機能の強化を図るため、防波堤の粘り強い構造化や長寿命化対策を計画的に実施します。また、官民連携による御前崎港ポートマーケティングを推進し、特に県中西部からの集荷に取り組み、利用促進を図ります。

(三遠南信地域連携の推進)

- 三遠南信地域の広域的な振興を図るため、防災対策や三遠南信自動車道の整備促進など、愛知・静岡・長野三県の連携による取組を推進するとともに、三遠南信地域の市町村の連携を支援します。

